

教授 片岡 祐司

| 教育上の能力に関する事項 | 年 月 日        | 概 要   |
|--------------|--------------|---|
| ◎教育方法の実践例    | 2016年度       | <p>・産学プロジェクトを授業に取り込み、プロの現場目線でデザイン教育</p> <p>1) トヨタ車体株式会社からの受託研究。トヨタ車体の生産する小型モビリティをテーマとし、IDコースの2年生、3年生が実技および演習授業の中で開発し、これに教員および、現職のデザイナーがアドバイスをを行うことによりデザインレベルを高めた。共同研究者：高次教授</p> <p>2) ナガサキ工業株式会社（アイアンラボブランド）受託研究。同社で生産することを前提とした金属素材を用いた家庭用品および雑貨デザインの提案。デザイン案はIDコースの4年生が実技授業の中で開発し、これに教員および、研究員がアドバイスをを行うことによりデザインレベルを高めた。これにより開発された作品のうち優秀なものは商品化され実際に販売されている。共同研究者：小塚講師</p> <p>3) つばめタクシー受託研究『次世代タクシー』を実技Ⅳの授業内で学生と開発した。デザイン開発プロジェクトは、トヨタ自動車からのコンセプトデザイン車両『JPN TAXI』をベースとして、ユーザーの視点、タクシー会社の視点などからタクシーを取り巻く環境を調査、分析することにより新たなコンセプトを導き出し、外装および内装のデザインを提案した。作品はIDコースの学生が実技授業の中で開発し、コンペ形式にてつばめ自動車会社に対しプレゼンテーションした。共同研究者：三枝樹講師</p> |
|              | 2016. 11. 17 | <p>・クレイモデルについての特別講義</p> <p>マツダ株式会社のクレイモデラーにデザインと文化における特別講義を依頼。特に低学年に向けて立体をデザインすること、進路のひとつとしてのクレイモデラーという職業について講義を行った。</p>  |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  | 2016. 9. 29                                    | <p>・学外授業での自動車博物館見学、講義<br/>自動車およびカーデザインの歴史を学ぶためトヨタ博物館を見学、博物館内で過去の名車をスケッチすることによりその成り立ち、構成を研究した。さらに博物館館長に特別講義を受け、自動車の初期モデルの実見学を行った。</p>   |
|  | 2016. 7. 8                                     | <p>・カラーデザイン特別講義<br/>マツダ株式会社のカラーデザイナーに製品企画論Aでの特別講義を依頼、企業におけるカラーデザインの仕事について紹介した。特にテキストイル、ヴィジュアルの分野についての講義まで範囲を広げ、進路のひとつとしてのカラーデザイナーという職業について説明した。</p>  |
|  | 2016. 11. 3<br>(トヨタ車体)<br>2017. 1. 20<br>(マツダ) | <p>・プロデザイナーによるデジタルスケッチ特別講義（2回開講）<br/>カーメーカーのスケッチ開発はデジタル化しつつあるが、学内では最先端のテクニックに触れることができないため、トヨタ車体、マツダ株式会社の現役デザイナーによる、デジタルスケッチについて最新のテクニックの指導を実施した。</p>   |
|  | 2016. 10. 13                                   | <p>・プロデザイナーによるレンダリング特別講義<br/>トヨタ車体デザイナーによる手描きスケッチ、レンダリングの特別講義を開催、実際の現場で描かれるスケッチのプロセス、テクニックを学んだ。</p>  |
|  | 2016. 9. 29                                    | <p>・学外授業での工場見学、デザインスタジオ見学<br/>トヨタ車体の工場およびデザインセンターを見学し現場の生産方法を学びながらデザインを研究、デザインの現場も見学し開発プロセスやその環境を知った。これにより進路選択の参考にもした。</p>   |
|  | 随時   | <p>・キャリア支援のための企業説明会<br/>カーデザインコースに向けて自動車メーカー、自動車部品、デザイン開発支援会社などに実技授業と連携するかたちで会社説明会を依頼、同時にデザイン開発についての講義を依頼し、キャリア支援と現場でのデザインプロセスを学ぶ機会とした。平成28年度はトヨタ自動車、マツダ株式会社、本田技術研究所、三菱自動車、ダイハツ、スバル、林テレンプなど10社ほどが実施した。また、ほとんどの企業がインターンシップも開催しているためこの参加も促進した。</p>   |
|  | 2016年度   | <p>・インターンシップ、インターンシップ演習<br/>企業等において一定期間実務を体験することを通じて、職業的スキルを身につけるとともに、社会人として働くことの意義を感じ取り、将来の職業選択や職業意識の育成に役立てる目的で平成22年より前後期に開講。授業としては実習に加えて、実習前の事前授業と実習後のフォローアップ授業を行ない、事前授業では、志望する業種・職種・企業等の研究、実習エントリーシートの作成、ビジネスマナーの講習などを行なう。フォローアップ授業では、実習報告レポートを作成し、担当教員に実習成果を報告するものとし、条件を満たした学生には単位を付与する。</p> |

|                       |         |   |
|-----------------------|---------|---|
| ◎作成した教科書・教材           | 2016. 4 | ・スケッチの教科書（40ページ）<br>カーデザイン、インダストリアル&セラミックデザインコース2、3年生用のテキストとしてスケッチの基本から応用までテクニックについてまとめ配布し、これを使用してスケッチの実技を行った。  |
| ◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価 |         | 学生による授業評価アンケートにおいてはほぼ全ての項目で平均を上回った。   |
| ◎その他<br>カーデザインコース開設   |         | 平成27年にカーデザインコースを開設した。この計画から立ち上げ、カリキュラムの設定、教員の配置などの業務を担当。合わせてインダストリアル&セラミックコースの開設に伴うカリキュラム、授業科目の住み分けや同時開講科目の設定なども担当した。これに伴う特別講座や雑誌広告などの広報活動、イベントなどを開催、認知度も上がってきており、カーデザインコースは順調にスタートした。本格的なカーデザインコースの開設は日本国内では初めて、全国的に本学の知名度を高め、特に東海地区においては圧倒的な存在感を示すことができた。 |

| 職務上の実績に関する事項  | 年 月 日            | 概 要  |
|---|------------------|--|
| 日本カーデザイン大賞<br>選考委員  | 2016. 12～2017. 1 | 日本カーデザイン大賞（ゴールデンマーカートロフィー）選考委員<br>1984年以来、カーデザイン界に支持され、継続されてきた、日本および世界でも特に価値のあるデザイン賞。この選考委員を委嘱され2016年度の審査を行い、表彰式に参列した。また選考委員会の審議内容はカースタイル誌011号（2017年2月号）にて詳細が発表された。  |
| 第22回地域フォーラム<br>「A&D2016 愛知」<br>—おわりのはじまりそして<br>MIRAI—<br>第二部 シンポジウム「エゴ<br>からエコへ、そしてエネに向<br>う自動車デザイン」の講演お<br>よびパネラーとして参加 | 2016. 7. 2       | 主催：武蔵野美術大学、武蔵野美術大学校友会、<br>後援：愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、CBCテレビ、NHK名古屋放送局、中京テレビ、東海テレビ、名古屋テレビ、朝日新聞、中日新聞、中部経済新聞、毎日新聞、読売新聞河合塾美術研究所、トヨタ自動車、三菱自動車工業<br>会場：名古屋能楽堂 対象：一般 学生 定員250名<br>趣旨：伝統と革新が共存する愛知ならではの「モノづくり」から見えてくるMIRAIを、名古屋城（公園内）に建つ能楽堂を舞台に、建築、デザイン各々専門家の立場から、城と車をテーマに実体験をもとに語り、未来が求めるモノづくり、カタチを創造する機会とした。 |
| 自動車技術会デザイン部門委員会主催『カーデザインに挑戦』カーデザインコンテスト開催<br>ウェブサイト『カーデザインに挑戦』運営  | 2016年度           | 本イベントは、自動車技術会の育成事業として2012年度より開始し、中高生に向けて、カーデザインを通じたものづくりの魅力に気付いてもらい、プロを目指す道筋をガイドし、将来性のある人材の発掘・育成に取り組もうと始めたもの。カーデザインコンテストはこのイベントとして開催、本年度で5回目。  |

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>受託研究<br/>ナガサキ工業株式会社<br/>(チームエコラボ)<br/>新製品デザイン開発プロジェクト</p> | <p>2016. 4～2017. 3</p>                         | <p>平成27年に引き続き、名古屋芸術大学デザイン学部デザイン研究所プロダクト&amp;スペースブロック分野、及び、デザイン学部インダストリアルデザインコースは、東海地区の地元中小企業による地域産業活性化のための研究組織『チームエコラボ』に所属するナガサキ工業株式会社の依頼により『新製品デザイン開発プロジェクト』を受託、新製品のデザイン開発を行い地域の活性化に貢献した。共同研究者：小塚講師</p>  |
| <p>受託研究<br/>つばめタクシー</p>                                      | <p>2016. 9～2017. 3</p>                         | <p>つばめタクシー受託研究『次世代タクシー』を実技Ⅳの授業内で学生と開発した。デザイン開発プロジェクトは、トヨタ自動車からのコンセプトデザイン車両『JPN TAXI』をベースとして、ユーザーの視点、タクシー会社の視点などからタクシーを取り巻く環境を調査、分析することにより新たなコンセプトを導き出し、外装および内装のデザインを提案した。作品はIDコースの学生が実技授業の中で開発し、コンペ形式にてつばめ自動車会社に対しプレゼンテーションした。共同研究者：三枝樹講師</p>   |
| <p>受託研究<br/>トヨタ車体株式会社</p>                                    | <p>2016. 7～2017. 3</p>                         | <p>トヨタ車体株式会社からの受託研究。トヨタ車体の生産する小型モビリティをテーマとし、IDコースの2年生、3年生が実技および演習授業の中で開発し、これに教員および、現職のデザイナーがアドバイスをを行うことによりデザインレベルを高めた。共同研究者：高次教授</p>  |
| <p>1日芸大生</p>   | <p>2016. 7. 31</p>                             | <p>小学生のためにデザインの実体験をとおして、その楽しさを理解してもらうイベント。<br/>IDコースでは、真空成型の実体験とこれにより出来上がるトレイを使ったゼリー作りを行い、これに講師として参加した。</p>   |
| <p>日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA) 主催<br/>『卒業制作展訪問』</p>             | <p>2017. 2～3</p>                               | <p>会場：中部地区各デザイン系大学卒業制作展会場<br/>主催：日本インダストリアルデザイナー協会<br/>中部ブロック委員としてデザイン系大学、専門学校の卒業制作展を訪問、学生のプレゼンテーションを受け作品を評価。JIDA賞を授与した。</p>  |
| <p>㈱自動車技術会での活動</p>   | <p>2002～<br/>2002～2005 幹事<br/>2012～2013 幹事</p> | <p>活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりの源流にたずさわるカーデザイナーが広く自信と存在感を示すための環境作り。</li> <li>・未来を担う若年層に向けてカーデザインの意味や重要性を伝えカーデザイナーへの動機付け。</li> <li>・日本の自動車産業におけるカーデザインの重要性をアピールし、カーデザイナーの社会的地位の向上。</li> <li>・カーデザイナーだからこそ実現可能なユーザーと技術者のパイプ役。</li> </ul> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム、フォーラム、オーガナイズ度セッションの開催</li> <li>・デザイン講習会開催</li> <li>・異業種技術者との交流事業</li> <li>・研究委員会、</li> <li>・キッズエンジニア デザインイベント主催</li> <li>・中高生向けデザインコンテスト『カーデザインに挑戦』主催</li> </ul> |

|                          |       |   |
|--------------------------|-------|---|
| 日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA) | 2006～ | 中部ブロック委員として総会、セミナーなどの開催、次世代委員会委員として若手や学生の育成を目的としたイベントへの参加 |
|--------------------------|-------|---|